鶴見文化財学会報
Tsurumi Cultural Properties A.C

vol.22
2021年3月16日発行
鶴見大学文化財学会

文化財学を学ぶ愉しみ

鶴見大学教授　小池　富雄

2021年３月をもって本学の定年退職を向かえる。大過なく勤務することができたのは年下であっても先任の教員はじめ助手、職員、関係者のおかげで深く感謝したい。36年間名古屋での美術館学芸員勤務を経て本学の教員に迎えられた時の感想は、本紙への前回（2014年15号）で披露し、二度目の今回は執筆の最後となる。

８年間学生諸君と文化財学を共に学んだ喜びと感謝を本稿に記しておきたい。ご存知の通り、この学問は比較的新しい領域で歴史学、地理学、考古学、美術史学、古文書学、民俗学、博物館学、文化財保存科学など幅広い人文・自然科学を総合して人類の歩みの成果である文化財を研究対象としている。本学科の教員はいずれの領域におけるエキスパートであり、学生はその成果を学び、吸収する。学業以外にうつつを抜かして無為に過ごす学生には、社会人となってその後の充実した人生を送るための準備期間となる貴重なチャンスを失うことになり「何と勿体無い」残念な数年になるので、改めて注意喚起しておきたい。

筆者の専門分野である日本、中国、琉球、高麗朝鮮など東アジアの古い漆工芸文化財の産地、時代、真贋などの判別や修復は一筋縄ではいかない。例えば掌に乗るような小さな中国漆器や陶磁器でも市場価格が数億円する骨董品もあれば、贋作もある。日本は東アジアのはずれ、極東にあってユーラシア大陸の古くからの文化財が大切に蓄積されてきた。代表例は、正倉院の宝物である。奈良の大仏を発願した聖武天皇の遺品を中心に唐、ペルシアなど日本製との判別が今なお未解明の文化財も含まれている。正倉院宝物ではなくても、筆者にも中国漆器か日本製の模写作か、中国製を日本で塗り替えたのか？などの疑問や判断が美術館学芸員時代の実に悩ましい課題であった。本学に赴任してみると６号館地下にはX線透過撮影はじめ電子顕微鏡、蛍光Ｘ線分析などの機器があり歯学部附属病院の臨床用CTや基礎研究用のマイクロX線CTなどを利用できた。８年間に東洋古漆器のCTによる非破壊分析に関する２冊の報告書を刊行し、科研費の研究成果も報告できた。研究の補助と分担をしてくれた渡邉裕香さんの同様テーマの博士論文は今では誰もが本学HPにある博士論文の情報公開で読むことができる。漆工芸品の表面からの判別は不能で同類に見えても、CT撮影から内部の構造は中国・高麗朝鮮、日本それぞれの差異特徴が見られた。この成果を導き出せたのは、実際の文化財を貸与・提供して下さった美術館、博物館、寺社、個人収集家のご協力があったからである。何よりも研究をサポートしてくれた皆さんが筆者と同様の疑問や問題意識を持ち、応援してくださったのが推進力となった。有償の受託研究では、分析と同時に院生らによる修復施工を学内で施し、返却時には大変喜んでもらえた。受託研究の題目と発表は、2017年度の文化財学会秋季シンポジウム「うるし研究の最前線」のレジュメに掲載して報告した。最新号の『文化財学雑誌』第17号に、８年間の研究業績の学会発表や論文目録もまとめている。共同研究発表者には大学院生・学部生が参加しており、その参加が無ければ達成はできなかった。

本学の定年退職後は、名古屋の自宅に帰り隠居生活をする計画だったが、公益財団法人静嘉堂文庫美術館の学芸部長に招かれたので東京丸の内にある明治生命館ビル（重要文化財）に展示室の移転に取り組んでいる。今後のお力添えを賜ることを願いつつ、諸会員へ８年間の謝意を重ねて申し上げたい。

小池先生は、お洒落な先生である。父母会やオープンキャンパスの折、左胸のポケットから覗いたハンカチーフを見るとその思いを強くする。

小池先生とは実習Ⅳの遠隔地巡検でベトナム、沖縄、ハワイとご一緒させて頂いたのが良い思い出になっている。ベトナムでは、現地で香木の栽培を手掛けているというお知り合いのお香屋さんが途中参加されいろいろお話を伺うことができて楽しかった。

（田中和彦）

小池先生といえば、いつも遅くまで研究室に残り、自身の研究や学生との面談などに時間を費やしている姿が印象的であり、研究と教育に向ける情熱には驚かされるものがありました。そのエネルギーは退職後も、様々な研究会や官公庁でのお仕事に向けられることになることと思います。今後の益々のご活躍を祈念しております。

（近藤祐介）

８年間大変お世話になりました。実習旅行で同行させて頂いた時など、先々の博物館で数多くの知り合いを紹介して頂き、先生の人脈の広さに唯々驚かされるばかりでした。これからの益々のご活躍を祈念致しております。

（石田千尋）

（撮影者 小林　恭治）

博物館での長年の経験と文化財に向かう小池先生の姿勢にはいつも感心するばかりでした。私個人にとっては、先生との焼物についてのお話がいつも愉しみで、肩肘張らないお茶の話題は人柄を良く示しておられました。

（宗臺秀明）

特に研究面でお世話になり、小池先生のおかげで研究活動の幅が広がりました。どうもありがとうございました。国内外問わず、元気に活動される先生の姿には頭が上がりません。今後、益々のご活躍をお祈り致します。

（星野玲子）

小池富雄先生、大変お疲れ様でした。同期で鶴見大学に来て、同じ美術史を教えることができたのは、私の宝です。今後のご活躍をお祈りするとともに、鶴見の先輩として文化財学科のことをよろしくお願いします。

（緒方啓介）

4月に着任した私は、小池先生が今年度一杯で定年だと知ったときには驚きました。短い期間でしたが、学科や文化財調査の様子をお話し下さったり、お手前をご馳走下さるなど、いろいろとありがとうございました。

（鈴木一馨）

御退任おめでとうございます。
実習IAや他の授業でのことは今でも覚えています。
鶴見大学に行きたいと考えたのも、高校の授業で先生から刀剣の話を伺ったことがきっかけでした。
短い間でしたが本当にありがとうございました。

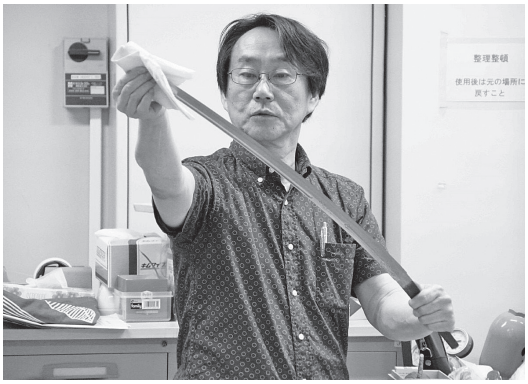
（佐々木　萌）

小池先生、この度はご退任になられることでお祝い申し上げます。
私としては、先生の下で二年間しかおりませんでしたが、暖かくご指導下さり、先生の人望の高さや独特な知見から本当に色んなことが勉強になりました。先生の新天地でのご活躍ご多幸をお祈り申し上げます。

（蘇　晨陽）

３年生の後期に入り始まったゼミでは不安もありましたが小池先生のおかげで自分のやりたいことを具体的に見つけられまた楽しく学ぶことが出来ました。
短い間でしたがありがとうございました。

（堀田悠介）



（撮影者 小林　恭治）

大学入学時からうるし研究部会やゼミを通して大変お世話になりました。研究室で先生が点てた抹茶を飲みながら研究に対する姿勢や体験談を含めた人生論について熱心にお話いただいたことが強く印象に残っています。今後もご健康で益々ご活躍されることを祈っております。

（松本卓己）

私が小池富雄先生と初めてお会いしたのは、新入生として鶴見大学に入学した時です。うるし研究部会に入ったこともあり、学部1年生の頃からお世話になりました。研究だけではなく進路についても沢山の篤いご指導を頂き、大変恵まれた学生でありました。ご退任後も益々の活躍をお祈りいたします。

（髙橋　奈）

ゼミ決めに悩んでいた時、最初にお話を聞かせていただいたのが小池先生でした。私の興味は書道具の水滴というニッチなものかと思っていたところ小池先生に「面白い」と言っていただいた事がとても心強かったという思い出があります。
本格的にゼミが始まり、半年という短い期間ですが自分の興味を全力で追求できる楽しいゼミでした。

（田中千咲）

文化財学会
春季大会・秋季シンポ関連報告

令和２年度
総会・春季講演会　６月６日（土）
「文化財の活用
～その目的と可能性～」（仮）
国立文化財機構文化財活用
センター副センター長
小林　牧

秋季講演会　11月７日（土）
「熊本城の初期の姿」（仮）
熊本県文化財振興課
美濃口雅郎

※令和２年度は以上の講演会、並びにシンポジウムを予定していましたが、新型コロナウイルスの感染防止のためやむなく中止になりました。

令和２年度
実習Ⅳ巡検旅行について

緒方　啓介

令和２年度予定していた実習Ⅳの国外コースと国内コースは、新型コロナウイルス感染拡大で、やむなく中止して履修者全員が自主コースを選択する措置をとることとなった。

現在、来年度に向けての実習Ⅳの国外及び国内コースの準備を今年度と同様の行程を予定して進めているが、新型コロナウイルスの感染拡大の収束を見ない限り、来年度の実施も流動的なのが現状である。令和３年度予定している各コースの行程は、次の通りである。

＜国外コース＞担当教員：緒方啓介

１日目　羽田－上海－重慶
２日目　重慶－★大足北山石窟－★大足宝頂山石－安岳・茗山寺石刻－安岳
３日目　安岳－臥仏院－毘盧洞－華厳洞－安岳
４日目　安岳－千仏寨－四川省博物院－成都パンダ繁育研究基地－成都
５日目　成都－陝西省歴史博物館－大雁塔－西安
６日目　★秦佣俑博物館（兵馬俑坑）－興教寺－碑林博物館－西安
７日目　西安－上海－羽田

★は世界遺産

＜国内コース＞※国外コース中止の場合

１日目　羽田－大分－臼杵石仏杵原八幡宮（宝物館）－大山寺－大分
２日目　大分－国東・熊野磨崖仏－真木大堂－富貴寺－宇佐神宮－大楽寺－大分県立歴史博物館－別府
３日目　別府－院内・龍岩寺－日田・永興寺（仏像収蔵庫）－日田
４日目　日田－吉野ヶ里遺跡－佐賀県立九州陶磁文化館－茂正工房－長崎
５日目　長崎－出島－崇福寺－興福寺－大浦天主堂－グラバー園－長崎
６日目　長崎－福済寺－聖福寺－諏訪神－原爆資料館－平和公園－浦上天主堂－長崎
７日目　長崎歴史文化博物館－長崎－羽田

＜国内コース＞担当教員：X教員

１日目　羽田－新千歳－小樽総合博物館－運河館－札幌
２日目　札幌－北海道博物館－開拓の村－北海道大学総合博物館－札幌市埋文センター－札幌
３日目　札幌－札幌時計台－円山動物園－ヒグマ博物館－地獄谷－札幌
４日目　札幌－国立アイヌ民族博物館－登別郷土料館－八雲町
５日目　八雲町－八雲郷土資料館・木彫熊資料館・八雲神社・八雲産業郷蔵－函館市縄文文化交流センター－函館市北方民族資料館－函館
６日目　松前城資料館－松前町郷土資料－開陽丸記念館－函館山－函館
７日目　函館－函館朝市函館市立博物館－五稜郭公園・函館奉行所・五稜郭タワー－羽田

＜自主コース＞担当教員：田中和彦

Ⅰ．計画書について

⑴様式：Ａ４用紙７枚以上（１枚1,600字）
横書き　表紙をつける。

⑵テーマ設定　（例：「萩藩と高杉晋作」）

⑶実習目的：テーマにそって実習目的を記す。

⑷実習時期と期間
- 予定の月日を記す。（例：９月７日～13日）
- ７日間　30時限（１時限＝90分、すなわち45時間）の予定を立てる。１日６時間～７時間。
- １日の実習行程を記す。
- 訪問する博物館、図書館、文書館、史跡、神社仏閣などを記す。
- 訪問場所の解説を記す。
- 訪問場所は複数とする。

＊訪問場所の地図を付ける。
＊人物を扱う場合には、必ず当該人物の誕生～死までの年表を作成して添付する。
＊ゼミ教員の指導を受けた上で提出すること。
＊８月末日までに実習Ⅳ（田中和彦）のコースのレポート欄にメールで、あるいは鶴見大６号館の田中和彦研究室に郵送で提出。

Ⅱ．実習の実施について
- 訪問場所の写真を撮影する。
- 訪問場所での観察記録をとる。
- 史跡、遺跡を訪問する人は、地形図（５万分の１の地図）を持参し、地図または地図のコピーに場所を記す。
- 博物館、美術館を訪問したときは入場券などを保存しておく。

Ⅲ．レポートについて
- Ａ４用紙10枚以上（１枚1600字）を作成。
- 博物館、図書館、文書館で調査・研究する場合は、１日分として、最低Ａ４用紙１枚以上の告書を作成する。
- 訪問場所は、写真を添え、キャプションに日付を記す。
- 博物館、美術館、資料館は、入場券の半券を添付する。
- ゼミ教員の指導を受けた上で提出する。
- 12月末日までに田中和彦研究室のポストあるいは郵送であるいは実習Ⅳ（田中和彦）のコースのレポート欄にメールで提出する。

研究部会報告

歴史考古学研究部会

本年度は新型コロナウィルスの影響による、大学側からの課外活動全般の活動停止に伴い、研究部会活動は全面的に停止しておりました。

それ以前の2019年度の歴史考古学研究部会では、以前より活発に行っていた屋内整理作業に巡検等新たな試みを取り入れ、活動の幅を広げると共に、実際の文献史料や考古資料を通し、各々の知見を深める事を目標に掲げ活動してきました。屋内作業では、前部会員がこれまで採集した資料の実測図・拓本作成を行いました。巡検では、７月に東京都墨田区の江戸東京博物館で行われた『発掘された日本列島2019』へと足を運び、最新の考古学情報に触れ、９月には國學院大學博物館など渋谷駅周辺の博物館施設にも足を運び、目標の通りに部会員が各々の知見を深める事ができました。また、多くの部会員が神奈川県内各地の発掘事業に積極的に参加し、有意義な研究活動に努めました。

来年度は大学側からの活動停止が緩和されるようであれば、新型コロナウィルスへの対策を講じつつ、学内における活動を中心に行い、外部への巡検も状況を考慮しつつ、行う事ができれば良いと考えています。そうした研究活動の中で、考古学を学ぶ上でも重要な「実際に見る・触れる経験」を深めていく事を目標とします。

江戸東京研究部会

私たち江戸東京研究部会は、「歩くと歴史が見えてくる」をモットーとして、月に一度程度東京都内の博物館・史跡等中心に巡検に赴き、現代と江戸時代の繋がりを調査・研究している部会です。活動内容は、毎週水曜日の昼休みに巡検先の決定や事前・事後学習を行うミーティングを開いております。

今年度はコロナの影響により巡検を行う事ができなかったため、昨年度の活動を紹介いたします。昨年度の主な巡検先は富岡八幡宮、深川不動堂、江戸東京博物館、国会議事堂、日比谷図書文化館、中野区立歴史民俗資料館、哲学堂公園、佃まちかど展示館、中央区立郷土天文館、物流博物館、港区立郷土歴史館です。私たちは東京23区の区立博物館へ赴き、東京の地理的・文化的な歴史等を調べるとともに、古地図を用いて実際に歩くことで江戸の町を体感することを目標に活動してきました。

昨年度の４月に行った巡検では富岡八幡宮から江戸東京博物館までの道のりを、実際に古地図を見ながら歩きました。それにより大通りや橋など江戸時代とほぼ変わりのない場所や、用水路や川の名残が見える道路など、古地図があるからこそ見えてくる江戸時代と現在の繋がりを体感することができました。

来年度は、今年度赴くことのできなかった区や博物館への巡検や、東京都内に限らない巡検などを行い、より発展的な活動をしていく所存です。

古典芸能研究部会

今年度はコロナウィルスの流行で活動を自粛しておりました。昨年度の活動は12月２日に歌舞伎座で行われた「十二月大歌舞伎」の巡検を行い、昼の部の「幸助餅」と「於染久松色読販　お染の七段」を鑑賞しました。

「於染久松色読販　お染の七段」の見どころは序幕での一人七役の早替わりです。お客が見ている中で籠や傘などの小道具を巧みに使いすり替わるその速さに驚かされました。

2019年２月２日に国立能楽堂で行われた「第28回能楽若手研究会東京公演　東京若手能」、８月２日に川崎山王祭の巡検を行いました。

川崎山王祭は稲毛神社で行われる祭事です。稲毛神社は御神木大銀杏の樹齢が千年と推定されており、川崎のなかでも歴史ある神社です。この川崎山王祭は、宵宮と呼ばれる前夜祭で３日間の無事と盛況を祈願し、初日は川崎山王祭の要となる最重要の祭典の例祭、氏子代表者によって行われる神奈川県指定民俗文化財の古式宮座式や近隣の方々による奉納演芸が行われます。２日目は町内の神輿の渡御（とぎょ）、間宮社中による神代神楽、奉納太鼓や奉納演芸を行い、最終日に行われる神幸祭は、「孔雀」と「玉」の２基の神輿が町内を巡行する祭典です。「孔雀」には男神、「玉」には女神が収められており、この巡行は「男女神の結婚」と「御子神の誕生」の物語

が隠されているとされています。

この後の活動としましては、巡検だけではなく学内でできる衣装着付けの体験などの活動をしていきたいと考えています。

宗教研究部会

宗教研究部会は今年度、コロナ禍により博物館の臨時休館や非常事態宣言による外出自粛などにより活動を行う事が難しく、巡検等は行えておりません。そのため、今年度の宗教研究部会での活動は、部会員それぞれが自分達の知識を論文等などで深めることを中心に進めました。

また、来年度の活動につきましては、この新型コロナウイルス感染症が収束の兆しをみせ、無事収束することができれば実際に寺社仏閣、博物館等へと巡検に赴き今年度巡検で得ることの出来なかった新たな知識を深めていくことが出来たらと考えています。

ですが、今年度のように新型コロナウイルス感染症が収束しなかった場合も考えなければならないと考え、

もし、新型コロナウイルス感染症が収束しなければ、今様々な寺社では「オンライン参拝」というスタイルも確立されており、東大寺や愛宕神社などで行うことのできるサービスがあり、賛否両論あるところですが、この「オンライン参拝」を行う事も視野にいれながら、部会員たちと現在の情勢でどのように自分達の知見を深めていくことができるか。という事を考えながら活動していきたいと考えています。

美術工芸研究部会

美術工芸研究部会（以下美工研）は、絵画や彫刻など美術品や工芸品を展示している博物館・美術館の巡検を行い、見聞を広めながらより深い知識を得ることを主な目的として活動しています。今年度は緒方ゼミに入った３年生11人と４年生６人、２年生１人の総勢18人で美工研の活動を行なっています。

今年度のゼミ旅行は３月２日、３日、４日の２泊３日で行い、伏見稲荷神社や奈良国立博物館、京都国立博物館へ巡検を行いました。しかし、巡検を予定していた新潟県十日市の神宮寺御開帳、神奈川県鎌倉市の明王院不動堂御開帳、神奈川県鎌倉市の常楽寺御開帳、神奈川県立歴史博物館の特別展「相模川流域のみほとけ」見学は新型コロナウイルスの影響から美工研として巡検を行うことは中止となりました。

来年度の活動としては横浜市歴史博物館の特別展「横浜の仏像」、神奈川県横浜市の東禅寺釈迦堂御開帳、新潟県十日市の神宮寺御開帳、神奈川県鎌倉市の明王院不動堂御開帳、神奈川県鎌倉市の常楽寺御開帳の巡検を計画していますが、今後の新型コロナウイルスの状況を考慮しながら巡検を行っていく予定でいます。

うるし研究部会

・２泊３日の名古屋、木曽産地見学

今年度うるし研究部会は新型コロナによって毎年の産地見学が行えなかった為３年次の活動を再度報告します。

うるし研究部会では平成30年度８月２日に名古屋見学、３日、４日に長野県木曽で学部生３名、院生１名、ＯＢ１名、本学教授の小池富雄教授の６名で漆の産地見学を行いました。２日の名古屋見学では午前と午後で２か所の場所を訪れました。午前の見学では、名古屋城が工事中であった為、2018年に復元された本丸御殿を訪れ、襖絵などを見学し、石棺式石室と呼ばれる島根県松江市山代町の団原古墳にあった石室などを訪れました。午後には、小池教授が働かれていた徳川美術館を訪れ、甲冑や能の舞台や実際に使われていた衣装などを見学しました。また美術館の裏側を見学させていただき、普段見ることのできない展示などに使われる道具などを見ることができ貴重な体験をさせていただきました。

３日は長野県木曽を訪れ、木曽くらしの工芸館の方々に漆畑や漆の工房を案内していただき、漆の木が適正な大きさに育つのに、お金や人件費がかかり、10年から15年ほどの時間を要することなどを聞き、国産の漆の貴重さを知ることができました。４日では、漆器を実際に制作している蔵の工房を見せていただき、沈黒という技法を実際に院生と学部生が体験しました。このように産地見学では漆について新たな事を多く学ぶことができ、研究室部会にとって貴重な経験となりました。

文化財学会　令和元年度決算

収入の部（元年度）		支出の部（元年度）	
会費	471,000	講演会費	107,698
研究助成金(大学)	150,000	事務消耗･雑費･通信費	155,809
研究助成金(同窓会)	200,000	会誌印刷費	693,010
会誌印刷補助費	20,000	会報印刷費	55,935
雑収入(会誌収入含)	13	部会補助費	14,124
前年度繰越金	190,453	次年度繰越金	4,890
合計	1,031,466	合計	1,031,466

令和元年度　会誌積立金決算

収入の部（元年度）		支出の部（元年度）	
前年度までの積立金	925,924	会誌印刷補助費	20,000
		次年度繰越金	905,924
合計	925,924	合計	925,924

資産目録総額

銀行預金(会誌積立金を含む)	1,086,374

文化財学会　令和２年度予算

収入の部（２年度）		支出の部（２年度）	
会費	350,000	講演会費	30,000
研究助成金(大学)	150,000	事務消耗･雑費･通信費	60,000
研究助成金(同窓会)	200,000	会誌印刷費	500,000
前年度繰越金	4,890	会報印刷費	70,000
		部会補助費	40,000
		予備費	4,890
合計	704,890	合計	704,890

令和２年度　会誌積立金予算

収入の部（元年度）		支出の部（元年度）	
前年度までの積立金	905,924	次年度繰越金	905,924
合計	905,924	合計	905,924

令和２年は総会が新型コロナウイルスの影響で中止となりました。
そのため会員送付の往復書面で採決をおこない、承認された決算ならびに予算です。

令和３年度の年間行事予定

●春季講演会
日　時：６月５日（土）午後３時から（仮）
会　場：鶴見大学会館地下１階メインホール
テーマ：「文化財の活用～その目的と可能性～（仮）」
講　師：小林　牧氏
（国立文化財機構
文化財活用センター副センター長）

●秋季講演会
日　時：11月６日（土）午後２時から（仮）
会　場：鶴見大学会館地下1階メインホール
テーマ：「熊本城の初期の姿（仮）」
講　師：美濃口　雅郎（熊本県文化振興課）

鶴見大学文化財学会会則

1．本会は鶴見大学文化財学会と称する。
2．本会は鶴見大学文化財学科教職員・学生および卒業生、その他の関係者をもって組織する。
3．本会は文化財にかかわる人文・自然諸科学の学問交流を活発化し、会員相互の研究を推進し、かつ親睦をはかることを目的とする。
4．本会は総会を毎年一回開く。ただし必要に応じて随時会長がこれを招集することができる。
5．本会はその目的を達成するために次の事業を行う。
　1　研究等の発表
　2　講演会の開催
　3　開始・会報等の編集作業
　4　研究部会活動
　5　HP上での広報活動
　6　親睦その他の事業
6．本会に次の役員を置く
　1　会長（1名）は学科長に委任し、本会を代表し会務を統括する。
　2　委員（若干名）。委員は諸事業の企画運営に携わり、会員間それぞれで互選する。任期は一年とし留任を妨げない。
7．本会の経費は会費（年額千五百円）、寄付金その他の収入をもってこれに充てる。
8．本会の事務所は下記におく。
　〒230-8501
　神奈川県横浜市鶴見区鶴見2丁目1番地5号
　鶴見大学6号館文化財学科合同研究室

付　平成11年10月16日から発足する。
付2　平成16年4月1日　一部改正
付3　平成23年4月1日　一部改正
付4　平成28年4月1日　一部改正

編集後記

無事、文化財学会報22号を刊行することができました。快く執筆を受け入れて下さった方々、又、ご協力頂きました多くの方々に篤く御礼申し上げます。今後もよりよい学会になるよう、委員一同尽力してまいります。

（会報一同）

連絡先

〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見2丁目1番地3号
鶴見大学　文化財学会
URL：http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/bunkazaigakkai/index.html
E-mail：bunkazai@tsurumi-u.ac.jp